

シミュレーション訓練

1 訓練の目的

電話という相手の行動や動作が把握できない状況の中で、胸骨圧迫等の口頭指導を行なうことから、バイスタンダーに口頭指導の内容が正確に伝わらず、有効な応急手当が行われていないことが考えられる。こうしたことから、指令員の口頭指導がバイスタンダーに正しく伝わり、有効な応急手当が実施されているかを検証することにより、口頭指導の質を向上させることを目的とする。

2 シミュレーション訓練実施方法

- 1 訓練実施者（指令員役）に指令内容は知らせずにブラインド形式で行う。
- 2 訓練実施場所をパーテーション等で区切り、訓練実施者（指令員役）から通報者役（バイスタンダー役）が目視にて確認できないようにする。
- 3 通報方法はモデル消防本部で対応できる形とする。
- 4 通報者役とバイスタンダー役を分ける等はモデル消防本部で対応できる形とする。
- 5 通報者役（バイスタンダー役）への指示や想定付与等はカンペなどを使用し細かく出すこと。
- 6 通報者役（バイスタンダー役）にあっては普通救命講習等の未受講者が望ましいがモデル消防本部が対応できる形とする。
- 7 住所、対象物名にあっては、モデル消防本部管内の住所にすること。なお、口頭指導が正しくバイスタンダーに伝わり、有効な応急手当が実施されているかを検証することを目的にしていることから、間違いやすい住所等は想定しないこと。
- 8 訓練想定にあっては別添の内容とするが、訓練実施者の技術及び経験により、モデル消防本部にて負荷かけることは可能とする。
- 9 通報者の性別にあっては、モデル消防本部で対応できる形とする。
- 10 電話番号にあっては、モデル消防本部で行う通報方法により対応すること。（固定電話または携帯電話）
- 11 傷病者役と訓練用人形の交換時期は、モデル消防本部で対応できる形とする。
- 12 通報者役共通事項
 - (1) 通報者役は興奮した強い口調（慌てている様子）で通報する。
 - (2) 訓練実施者（指令員役）から聞かれたことのみに返答する。
 - (3) 事前情報以外の内容を言わない。
 - (4) 口頭指導の内容には主観はいれずに指導通り対応する

想定 1

発症時間：18時30分（通報1分前）

住 所：〇〇市〇〇〇町目〇番〇〇号

対 象 物：〇〇マンション〇〇号室

通報内容：自宅で夕食中に夫が食べ物を喉に詰めて、苦しそう。妻からの通報

通 報 者：〇〇（〇性） （電話番号）090-〇〇〇〇-〇〇〇〇

傷 病 者：65歳男性

傷病者の状態

食事中に何かを喉に詰め、苦しんでいる。声はかろうじて出せ咳をしている状態。顔面紅潮苦悶。

その後、気道の完全閉塞となり声が出せなくなる。チョークサインあり。意識レベルが低下し心肺停止に移行する。

聴取ポイント

意識状態→意識はありますか？（なければ呼吸を確認）

喉をかきむしっている→喉を押さえたり、かきむしったりしていませんか？

チアノーゼ→顔色は蒼く（紫色では）ないですか？

呼吸困難→突然苦しくなりましたか？

声が出ない→声は出せますか？

突然の呼吸苦→食事中に呼吸が苦しくなりましたか？

通報者役返答可能情報

（通報時）

- ・肉を食べていた・声はかろうじて出せている・顔が赤くて苦しそう

（咳をさせるように口頭指導した後）

- ・立ち上がって咳をしている

（数回咳をした後）

- ・喉をかいている（触っている）・声が出なくなった・咳をしなくなった

（背部叩打法を指導しバイスタンダーが実施後）

- ・意識が無くなった

- ・立っていたが倒れた

- ・動かなくなった等（心肺停止を疑わせる言葉）

口頭指導：通報者を落ち着かせる→咳をさせる（咳（声）が出なくなったらすぐに知らせるように指導する）→背部叩打法（意識（反応）がなくなっ

たらすぐに知らせるように指導する) →胸骨圧迫

- ポイント：①通報者に対して救急車がすでに要請場所に向かっていること等を伝え、安心感を与えながら落ち着かせることができるか。
- ②咳をすることが可能ならできるだけ続けるよう指導できるか。
- ③咳（声）が出なくなったらすぐに知らせるように指導することができるか。
- ④咳（声）が出せなくなった時点で、完全気道閉塞と判断し、早期に背部叩打法を指導できるか。（実効性の高い簡略的な背部叩打法のみを指導する。通報者が腹部突き上げ法を知っていれば指導も可）
- ⑤通報者に分かりやすい言葉で指導ができるか？（叩打位置）
- ⑥意識（反応）がなくなったらすぐに知らせるように指導できるか。
- ⑦意識（反応）がなくなったことで心肺停止になってしまったことを判断し、すぐに胸骨圧迫法を指導できるか。
- ⑧通報者に分かりやすい言葉で指導ができるか？（胸骨圧迫）
- ⑨胸骨圧迫後の口腔内の確認を指導できるか。（異物が目視出来れば取り除く）
- ⑩効果がみえなくても胸骨圧迫を継続するよう指導ができるか。（救急車が近くまで来ている等、傷病者を励ませるか）
- 他に助けを求められる人がすぐ近くにいるか確認したか。
- 他に助けがいる場合は、AEDが近くにあるか確認したか。
- 緊急度が高いことを判断し、PA連携等の出動指令をかけられるか。
（モデル消防本部の実情に合わせた出動指令で可 ドクターカー等）

【通報内容例】

（指令員）「はい、119番消防です。火事ですか？救急ですか？」

（通報）「救急です」（興奮した感じで強い口調）

（指令員）「救急車の向かう住所を教えてください。」

（通報）「〇〇市〇〇〇町目〇番〇〇号です。」

（指令員）「〇〇マンションですか？」

（通報）「そうです。」

（指令員）「何号室ですか？」

（通報）「〇〇〇号室です。」

（指令員）「どうしましたか？」

(通報)「主人(妻)が食事中に何かを喉に詰めて苦しんでいます。」
(指令員)「今、近くの救急車を出しました。ご主人(妻)は声をだせますか？」
(通報)「かろうじて出せます。顔が真っ赤になっています。」
(指令員)「咳をすることはできますか。」
(通報)「咳をしています。」
(指令員)「がんばって咳をするように伝えてください。」
(通報)「わかりました。伝えます。」
(指令員)「咳(声)が出なくなったらすぐに教えてください。」
(通報)「わかりました。」

約 20 秒後

(通報)「咳(声)が出せなくなりました。」
(指令員)「奥さん(ご主人)、もう救急車はそちらに向かっていますので、
今から私の言うとおりにしてください。」
※携帯電話や子機を使用している場合は、ハンズフリーにするよう
指示があれば電話を床に置く。指示がなければその都度受話器越し
に話した後、応急手当をするように演技する。
(指令員)「ご主人(奥さん)の肩甲骨の真ん中を手のひらで強く 5 回叩いて
ください。」
(通報)「わかりました。(5 回叩く)」
(指令員)「口の中に詰まったものは見えますか？」
(通報)「見えません。」
(指令員)「では、もう一度強く 5 回叩いてください。もし意識(反応)がな
くなってしまったらすぐに教えてください。」
(通報)「わかりました。(5 回叩く)」
(指令員)「口の中に詰まったものは見えますか？」
(通報)「なんかぐったりしてしまいました。」

※この時点で意識がなくなり倒れこむ(合図後)、生体と訓練人形を入れ替える。

(指令員)「意識(反応)はありますか。」
(通報)「ありません。」

(指令員)「胸骨圧迫のやり方を伝えますので、その通りに行ってください。」
(通報)「わかりました。」

※この時点で口頭指導がなければ

(通報)「早く来てください。主人(妻)が倒れて動かなくなりました。」

(怒っている強い口調で)

(指令員)「落ち着いてください。」

まだ、胸骨圧迫の口頭指導ができなければ

(通報)「主人(妻)を助けてください。どうしたらいいですか？」

※胸骨圧迫の口頭指導を実施。(モデル消防本部の口頭指導プロトコル)

(指令員)「もうすぐ救急車が着きますから、救急隊と交代するまで胸骨圧迫をやめないでください。他に胸骨圧迫を替わる人はいますか？」

(通報)「いません。私だけです。」

※約2分胸骨圧迫を実施。

胸骨圧迫の質を維持するための指導をしたか。

胸骨圧迫後に口腔内の確認をしたか。(異物が目視出来れば取り除く指示をしたか)

効果がみえなくても胸骨圧迫を継続するよう指導ができたか。

(救急車が近くまで来ている等、傷病者を励ませたか。)

(通報)「救急隊員が来ました。」

(指令員)「電話を切ります。」

想定 2

受傷時間：22 時 30 分

住 所：〇〇市〇〇〇丁目〇番

目 標：〇〇駅北口

通報内容：夫（妻）が刃物で刺された。刺した男は逃げた。

通 報 者：妻（夫）（携帯）090-●●●●-〇〇〇〇

傷 病 者：40 歳男性

受傷部位：左腹部及び右大腿部刺創。出血多量、刃物は右大腿部に刺さっている。

凶 器：長さ約 20 cm の包丁（傷病者のそばに落ちている）

身体状態：自力歩行不能で仰臥位、腹部から活動性出血を認めるも右大腿部からの出血は微量。顔面蒼白、荒い呼吸。

聴取のポイント

刃物など状態→刃物は刺さったままですか？（もし刺さった状態なら、抜かないように指示する）

負傷者多数も考える→刺された人は何人ですか？複数いますか？

刺した人は近くにいますか？→近くにいたら、逃げるように指示する。

意識状態→意識はありますか？

呼吸の有無→普段通りの呼吸はしていますか？

通報者役返答可能情報

（通報時）

- ・知らない男に突然刺された・お腹を刺された後に足を刺された。
- ・包丁は足に刺さっている・お腹から血がたくさん出ている
- ・刺されたのは夫（妻）だけ・加害者は逃げた・警察官が到着している
- ・意識はある・呼吸は速い・顔色は白い・ビニール袋を持っている
- ・近くに人はいない

（止血の口頭指導時）

- ・ビニール袋を持っている・止血はやったことがない
- ・助けてくれる人はいない・包丁は動いていません

（止血実施後）

- ・血は止まりません

（止血実施 2 分後）

- ・意識がなくなりました・呼吸をしていません・CPR は知りません

口頭指導：通報者を落ち着かせる→止血を指示する（直接血液に触れないように可能であればゴム手袋やビニール袋を着用させる。また、意識（反応）がなくなったらすぐに知らせるように指導する）→胸骨圧迫

ポイント：①通報者に対して救急車がすでに要請場所に向かっていること等を伝え、安心感を与えながら落ち着かせることができるか。

②加害者の情報を判断し適切に対応できるか。（通報者に逃げるように指示をしたり警察官の確認等）

②包丁が抜けないように注意させる。

③止血（直接血液に触れないように可能であればゴム手袋やビニール袋を着用させる。）

④意識（反応）がなくなったらすぐに知らせるように指導できるか。

⑤意識（反応）がなくなったら呼吸の確認をして、すぐに胸骨圧迫法を指導できるか。

⑥通報者に分かりやすい言葉で指導ができるか？（胸骨圧迫）

⑦効果がみえなくても胸骨圧迫を継続するよう指導ができるか。（救急車が近くまで来ている等、傷病者を励ませるか）

○他に助けを求められる人がすぐ近くにいるか確認したか。

○他に助けがいる場合は、AEDが近くにあるか確認したか。

○緊急度が高いことを判断し、PA連携等の出動指令をかけられるか。
（モデル消防本部の実情に合わせた出動指令で可 ドクターカー等

【通報内容例】

（指令員）「はい、119番消防です。火事ですか？救急ですか？」

（通報）「救急です」（興奮した感じで強い口調）

（指令員）「救急車の向かう住所を教えてください。」

（通報）「〇〇市〇〇〇町目〇〇駅北口。」

（指令員）「〇〇駅の北口ですか？」

（通報）「そうです。」

（指令員）「〇〇前ですか？」

（通報）「そうです。」

（指令員）「どうしましたか？」

（通報）「主人（妻）が刺されました。」

（指令員）「刺した人はまだ近くにいますか。」

（通報）「逃げていきました。」

(指令員)「警察には電話しましたか。」
(通報)「すぐそこに交番があり警察官がきてくれました。」
(指令員)「近くの救急車を出しました。ご主人(妻)の意識はありますか？」
(通報)「あります。」
(指令員)「どこを刺されたのですか。」
(通報)「お腹と足を刺されました。」
(指令員)「包丁は抜かれていますか。」
(通報)「足に刺さっています。」
(指令員)「包丁は抜かないようにしてください。」
(通報)「わかりました。」
(指令員)「お腹の出血はどうですか。」
(通報)「たくさん血が出ています。」

※この時点で口頭指導がなければ

(通報)「早く来てください。お腹から血がたくさん出ています。」

(怒っている強い口調で)

(指令員)「落ち着いてください。」

まだ、口頭指導ができなければ

(通報)「主人(妻)を助けてください。どうしたらいいですか？」

(指令員)「奥さん(ご主人)、もう救急車はそちらに向かっていますので、
今から私の言うとおりにしてください。」

※携帯電話や子機を使用している場合は、ハンズフリーにするよう
指示があれば電話を床に置く。指示がなければその都度受話器越し
に話した後、応急手当をするように演技する。

(指令員)「ご主人(奥さん) ゴム手袋やビニール袋はお持ちですか。」

(通報)「ビニール袋ならあります。」

(指令員)「ビニール袋の中に手を入れて下さい。その手で血液に直接触れな
いようにお腹の血の出ているところを押さえてください。目や口にも
血液が入らないように注意してください。」

(通報)「怖くて出来ません。」 ※1度断ってください。

(指令員)「がんばってください。」 ※実施させるような言葉

(通報)「わかりました。」

約 20 秒後

(指令員)「血はまだ出ていますか。」

(通報)「全然変わりません」

(指令員)「それではもっと力を入れて押さえてください。」

約 20 秒後

(通報)「先程より出血は少なくなりました」

※この時点で意識がなくなる（合図後）、生体と訓練人形を入れ替える。

（最初から訓練人形でも可）

(通報)「意識がなくなりました。」

(指令員)「呼吸はありますか。」

(通報)「ありません。」

(指令員)「胸骨圧迫のやり方を伝えますので、その通りに行ってください。」

(通報)「わかりました。」

※この時点で口頭指導がなければ

(通報)「早く来てください。主人（妻）が動かなくなりました。」

（怒っている強い口調で）

(指令員)「落ち着いてください。」

まだ、胸骨圧迫の口頭指導ができなければ

(通報)「主人（妻）を助けてください。どうしたらいいですか？」

※胸骨圧迫の口頭指導を実施。（モデル消防本部の口頭指導プロトコル）

(指令員)「もうすぐ救急車が着きますから、救急隊と交代するまで胸骨圧迫

をやめないでください。他に胸骨圧迫を替わる人はいますか？」

(通報)「いません。私だけです。」

※約 2 分胸骨圧迫を実施。

胸骨圧迫の質を維持するための指導をしたか。

効果がみえなくても胸骨圧迫を継続するよう指導ができたか。

（救急車が近くまで来ている等、傷病者を励ませたか。）

(通報)「救急隊員が来ました。」

(指令員)「電話を切ります。」

想定3

受傷時間：1月24日 6時30分（通報約15分前）

住所：〇〇市〇〇〇丁目〇番

目 標：〇〇前路上

通報内容：ウォーキング中に突然の胸痛で動けなくなり座りこんでいる傷病者を
通勤途中の通行人が発見・通報。

通 報 者：〇〇（〇性）（携帯）090-●〇●〇-●〇●〇

傷 病 者：70歳男性

傷病者の状態

ウォーキング中に突然の胸痛で動けなくなった。呼吸苦。こんなに長い痛みは初めて。座位。

意識清明、顔面蒼白、冷汗あり

- ・呼吸：努力性で速い
- ・既往：高血圧、狭心症（近医かかりつけ）
- ・薬：ニトログリセリン舌下（10分前）しても症状改善せず、状態悪くなる。

聴取ポイント

呼吸苦→はぁはぁ苦しそうな呼吸をしていますか？

胸痛・胸部不快感→胸の痛みや、胸が重いような幹事ではありますか？

放散痛→背中、肩、みぞおち、歯痛など、他に痛みを感じる場所はありますか？

顔面蒼白・冷汗→顔色は悪くないですか？

既往症に狭心症・不整脈→心臓の病気はなにかありますか？

通報者役返答可能情報

（通報時）**主訴や既往症等は本人に確認してから返答**

- ・顔色は白い・冷や汗をかいている
- ・胸痛（詳しく聞かれたら、締め付けられるような感じ）
- ・既往：高血圧、狭心症（近医かかりつけ）
- ・薬：ニトログリセリン舌下（10分前）しても症状改善しない。
- ・前にコンビニがありAEDが設置されている。
- ・人はたくさんいる（心肺蘇生法は知らない、AEDも使用できない）。

（容体変化時）

- ・意識がなくなった・動かなくなった（心肺停止を疑わせる言葉）

口頭指導：歩かないようにする→何かかける物があればかけるようにする→
AEDを取りに行ってもら→意識がなくなれば呼吸を確認
→胸骨圧迫

- ポイント：①通報者に対して救急車がすでに要請場所に向かっていること等を伝え、安心感を与えながら落ち着かせることができるか。
②患者さんが歩いたりしないようにさせる。
③通報者を介した情報聴取で虚血性心疾患をうたがえるか？
(胸痛の部位、持続時間、初発なのか、既往とかかりつけ病院)
④薬の使用状況(ニトログリセリン)などを聴取できるか？
⑤AEDが近くにあるか確認し、取りに行かせたか？
⑥意識(反応)がなくなったらすぐに知らせるように指導できるか。
⑦意識(反応)がなくなったら呼吸の確認をして、すぐに胸骨圧迫法を指導できるか。
⑧通報者に分かりやすい言葉で指導ができるか？(胸骨圧迫)
⑨効果がみえなくても胸骨圧迫を継続するよう指導ができるか。(救急車が近くまで来ている等、傷病者を励ませるか)
- 他に助けを求められる人がすぐ近くにいるか確認したか。
○緊急度が高いことを判断し、PA連携等の出動指令をかけられるか。
(モデル消防本部の実情に合わせた出動指令で可 ドクターカー等

【通報内容例】

(指令員)「はい、119番消防です。火事ですか？救急ですか？」

(通報)「救急です」

(指令員)「救急車の行く住所を教えてください。」

(通報)「〇〇市〇〇〇丁目〇番です。」

(指令員)「〇〇前ですね」

(通報)「そうです。」

(指令員)「今救急車を出動させました。どなたがどういたしましたか？」

(通報)「私が通勤途中、路上で座って動けない男性を見つけて、話を聞いたら突然胸が痛くなって、動けなくなったらしくて、救急車を呼んでくださいと頼まれました。」

(指令員)「今本人は話を出来ますか？何分前から痛いですか？」

(通報)「話はできます。15分ぐらい前からだそうです。」

※主訴や既往症等は本人に確認してから返答。

(指令員)「初めての痛みですか？」
(通報)「今まで何回かあるようですが、こんなに長いのは初めてみたいです。」
(指令員)「何か持病はありますか？」
(通報)「高血圧と狭心症があるそうです。」
(指令員)「何か薬は飲んでいますか？」※通報者が傷病者に尋ねた後。
(通報)「今から5分ほど前ニトログリセリンを舌下しましたが良くなりません。
みたいです。」
(指令員)「今、救急車が向かっていますので患者さんが歩いたりしないよう
に見ていて下さい」
(通報)「わかりました」

約 20 秒後

※この時点で意識がなくなる（合図後）、生体と訓練人形を入れ替える。
（最初から訓練人形でも可）

(通報)「意識がなくなりました。」
(指令員)「呼吸はありますか。」
(通報)「ありません。」
(指令員)「胸骨圧迫のやり方を伝えますので、その通りに行ってください。」
(通報)「わかりました。」

※この時点で口頭指導がなければ

(通報)「早く来てください。旦那さんが動かなくなりました。」
（怒っている強い口調で）
(指令員)「落ち着いてください。」

まだ、胸骨圧迫の口頭指導ができなければ

(通報)「動かなくなりました。どうしたらいいですか？」

※胸骨圧迫の口頭指導を実施。（モデル消防本部の口頭指導プロトコル）

(指令員)「もうすぐ救急車が着きますから、救急隊と交代するまで胸骨圧迫
をやめないでください。他に胸骨圧迫を替わる人はいますか？」

(通報)「はい。います。」

※約2分胸骨圧迫を実施。

胸骨圧迫の質を維持するための指導をしたか。

効果がみえなくても胸骨圧迫を継続するよう指導ができたか。

(救急車が近くまで来ている等、傷病者を励ませたか。)

(通報)「救急隊員が来ました。」

(指令員)「電話を切ります。」